

3 東アジアと倭

今回の学習内容はこう理解せよ！

ここでは、ヤマト政権成立の外的要因として、当時の東アジア情勢に着目する。東アジアの状況、ヤマト政権が東アジアと交流を持った目的を押さえよう。

知識を整理

◆東アジアとの関わり

時期	出来事	出典	中国	朝鮮
紀元前1世紀頃	朝鮮半島の楽浪郡へ遣使	『漢書』地理志	前漢	高句麗
1世紀半ば	奴国王が後漢へ遣使 「漢委奴国王」の印綬を受けたとされる	『後漢書』東夷伝	後漢	高句麗
3世紀後半	卑弥呼が魏へ遣使 「親魏倭王」の称号を得る	『魏志』倭人伝	魏・呉・蜀	高句麗 馬韓・辰韓 弁韓
4世紀末	倭と高句麗が交戦	好太王碑		高句麗・百濟 新羅・加耶（加羅）
5世紀初め～	倭の五王の遣使	『宋書』倭国伝	南朝（宋など） 北朝（北魏など）	高句麗・百濟 新羅・加耶（加羅）

◆倭の五王

5世紀初めから約1世紀の間に中国の南朝に遣使した5人の王（^{さん}讚・^{ちん}珍・^{せい}済・^{こう}興・^ぶ武）

= 「倭の五王」

▶遣使の背景

●東アジア情勢

中国 = 南北朝時代

朝鮮半島 = 4世紀：□①が朝鮮半島北部を統一

百濟・新羅がおこり、国家を形成

4世紀後半：南部への勢力拡大をめざして、□①が新羅や百濟を圧迫

●ヤマト政権の状況

鉄資源を求めて朝鮮半島に進出、百濟や□②と結びつく

4世紀後半：南部進出を進める□①と交戦

↓
その後、朝鮮半島から撤退

↓
倭の五王は中国の南朝に朝貢することで、朝鮮半島南部における外交・軍事上の立場を優位にすることを目論んだ。

◆東アジア情勢の変化とヤマト政権の動揺

東アジアの状況		国内の状況	
6世紀	高句麗の圧迫で新羅・百済は勢力を南下させ、加耶（加羅）を圧迫	527年	磐井の乱が起こる
562年	加耶（加羅）が③に滅ぼされる →倭は朝鮮半島における勢力基盤を失う	540年	大連の 大伴金村 の失脚 ↓ 物部氏と蘇我氏が朝廷の主導権をめぐって対立
581年	隋の成立		
589年	隋の中国統一	587年	④氏が勝利



倭は中国や朝鮮半島からの外圧に対抗するため、国内の権力集中の必要にせまられる。

◆推古朝の政治と外交

▶政治

推古天皇・厩戸王（聖徳太子）・蘇我氏の下、天皇中心の国家体制の構築をめざす。

- **冠位十二階の制**（603）：個人の才能や功績に応じた冠位制度
→職務を世襲する氏姓制度の打破
- **憲法十七条**（604）：天皇への服従，官人としての心得を示す

▶外交

607年に⑤を遣隋使として派遣

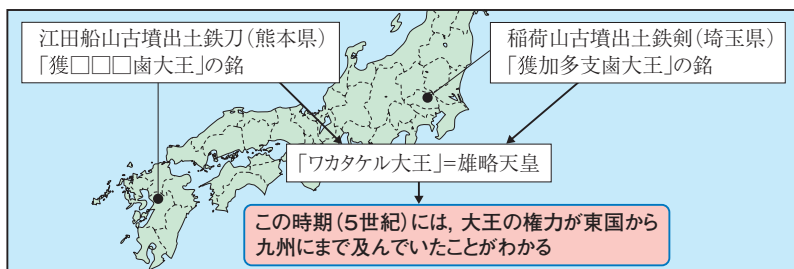
派遣背景：冠位十二階・憲法十七条の制定（最低限の政治・儀礼制度が整う）
新羅征討計画（外交政策による対朝鮮関係の打開を模索）

方針：中国皇帝に臣属しない形式

結果：中国皇帝煬帝は倭の態度を無礼とするも，交戦中の高句麗が倭と結びつくことを恐れ，裴世清を答礼使として日本に遣わす

図表で知識を再構築

▼ヤマト政権の勢力拡大



空欄の解答

- ① 高句麗 ② 加耶（加羅） ③ 新羅 ④ 蘇我 ⑤ 小野妹子